

この神聖なイチョウの木は、高さ 24.3m、根幹周囲 8.5m あり、推定樹齢は 500 年を超える。このイチョウの木が基となって田中神社が建立されたと考えられている。

田中地区にあることから「田中の大イチョウ」と呼ばれることが多いが、より正確には「大権現のイチョウ」として知られている。権現とは、仏教の神（仏または菩薩）が姿を変えて神道の神として現れることを指す。この神仏混交の表れは、日本の歴史において非常によく見られ、国の至る所で多くの権現が祀られている。

地元の言い伝えによると、イチョウの生長は、高名な僧侶である弘法大師（774～835）によるものである。生前は空海として知られ、真言宗の開祖である。空海は諸国巡錫の折、ある日この場所で昼食をとった。食事が終わると、空海は地面に箸を突き刺した。その箸は空海の霊力により、田中の大イチョウに生長したという。これは、2 本の幹が合わさっているように見える独特な外観の由来でもある。

この木に関するもう一つの逸話として、毎年 11 月下旬になると、一晩のうちにすべての葉が落ちると言われている。そして、これを見た者は誰でも不幸な目に遭うと言う。

御堂と呼ばれる隣接する小さな建物は田中神社で、正確な創建時期は不明である。何度も再建されたことが知られており、最近では、1978 年に再建された。